

1370 | ミュゼオロジーⅠ

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

新見隆教授、河原啓子講師、中島智講師

授業の概要と目標

「ミュゼオロジー（博物館学）」の概念についての基本的理解を獲得し、世界と日本における博物館の成立から現在までの展開、現行の博物館法に基づく博物館の定義と分類、博物館と博覧会等との関係、博物館における資料の条件と区分法、資料の保存と公開との関係、現代のヨーロッパと日本における博物館の動向、博物館の施設と活動との関係などについての基礎的知識を、美術館の事例を中心として学修すること。

課題の概要

○面接授業課題

学芸員の業務や美術館活動の実際を、講義と見学、グループ議論等により指導。

○通信授業課題

教材による学習の後、博物館施設の事例調査に基づく研究を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

*課題については学習指導書『ミュゼオロジーⅠ 平成30年度』を必ず参照すること。

授業計画

面接授業



通信授業

[面接授業]

- ・コレクション形成と美術館の成立／美術館と展覧会／学芸員の業務／美術館評価／美術館の動向 等
- ・美術館見学／学芸員・職員による説明／施設、展示、来場者等に関する調査
- ・見学施設への美術館評価のグループ発表と講評指導

[通信授業]

- ・（教材による学習）ミュゼオロジーの概念／ミュージアム体験の意味／博物館法／博物館の種類／ミュージアムの歴史／各国博物館の特徴と社会背景／設置形態と収集理念／ミュージアムの空間／キュレーター視点 等
- ・（学修報告と添削指導）美術館の人・物・場の関係について事例調査に基づく研究

成績評価の方法

通信授業、面接授業評価の平均点とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

[備考] 芸術文化学科各コース3年次必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

教材等

教科書：新見隆編『ミュゼオロジーへの招待』（武蔵野美術大学出版局 2015年）

学習指導書：『ミュゼオロジーⅠ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

その他

日頃からできるだけさまざまなミュージアムに実際に足を運び、そこで何を見て、体験し、そして何を感じたかについて振り返りつつ、学習をすすめてほしい。

また、レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

1380

造形民俗学

2単位（通信授業2単位）

亀井好恵講師

授業の概要と目標

ここでは、民具とよばれる道具類を対象として日本、日本人の築きあげてきた生活文化、生活意識のありようを考える。民具は比較的身近にある材料を素材として、伝統的な技法で作られ、日常生活に欠くことのできない必須のものとして使い続けられてきたものである。特別なモノではない。存在するのが当たり前として研究や観賞の対象として取り上げられることもなかったものである。しかし、それらの一つ一つを取り上げて、制作技術、使用方法、暮らしの中での役割・機能等を仔細に観察する時、そのモノに込められた作る人、使う人の心情をも読み取ることができる筈である。それこそが造形やデザインの原点ともなるものであろう。

課題の概要

○通信授業課題1

「伝統的生活用具の機能と造形」

伝統的だと考えられる生活用具（民具）の一つを取り上げて、そのものの使われ方、生活の中での役割、機能をそのものに即して具体的に調査・研究し、その形の持つ意味を考察すること。本文2000～3000字以内にまとめ、他に形態、大きさのわかる計測図を何点かつけること。ものによっては使い方も図示すること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

○通信授業課題2

「新しい生活用具の導入と生活の変化」

1960年代以降の高度経済成長等による急速な社会変化にともなって、新しい生活機器類（農器具・電気器具等）が導入普及され、従来の民具がそれに置き換えられる傾向が広範にみられる。それらの機器が家庭内に入ることによって、生活の中には変わった部分とそれにもかかわらず変化のない側面があるはずである。具体的に一つの機器あるいは民具を取り上げて調査・研究し、レポートすること。本文2000～3000字以内にまとめること。また大きさのわかる計測図を何点かつけること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

*課題については学習指導書『造形民俗学 平成30年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書として使用する『藁の力』は、ここで対象とする造形物（民具）の研究方法を具体的に提示したものであるからそれを十分に読み込み、研究・調査、観察の手引きとすること。

成績評価の方法

科目試験は行わない。通信課題のみによって評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「デザインリサーチI・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

[備 考] 芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目。
芸術文化学科文化支援コース3年次選択必修科目。

教材等

教科書：田村善次郎、佐藤健一郎『藁の力』（淡交社 1996年）

学習指導書：『造形民俗学 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

1390 | メディア論

2単位（通信授業2単位）

金子伸二教授、岡川純子講師

授業の概要と目標

社会における情報・知識の拠点としての博物館の役割を理解するとともに、博物館活動においてメディアが果たしている教育・普及・研究面での機能を、メディアを活用した展示や資料解説、インターネットによる情報サービス、美術館における画像等のデータ活用などを題材に、メディア・リテラシーの視点から学ぶことで、メディアの形式と情報の意味との関係を把握し、情報発信の担い手としての知見と責任意識を獲得すること。

課題の概要

○通信授業課題1、2

教材による学習の後、博物館を見学調査する。博物館内での情報発信の取り組み、視聴覚メディアによる展示解説の調査報告をまとめる。博物館における情報やメディアの扱い、活用、その効果と可能性を考察する2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

*課題については学習指導書『メディア論 平成30年度』を必ず参照する。

授業計画

[通信授業]

- ・(教材による学習) 教育におけるメディア活用／視聴覚教育の源流と展開／視聴覚メディアの諸形態／メディアの概念と歴史／メディア「による」教育と、メディア「についての」教育／メディア・リテラシー教育の成立と展開／博物館におけるメッセージ伝達／メディアを活用した展示／教育の情報化／メディアに関わる諸権利 等
- ・(学修報告と添削指導) 博物館内における情報発信の取り組みについての調査／博物館展示における視聴覚メディアを用いた展示解説の調査

成績評価の方法

通信授業課題1と2を総合して評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「デザインリサーチI・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

[備 考] 芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース3年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチI・II」の単位修得が無くても履修できる。

教材等

教科書：佐賀啓男編著『改訂 視聴覚メディアと教育』（樹村房 2010年）

学習指導書：『メディア論 平成30年度』（武蔵野美術大学造形大学通信教育課程 2018年）

その他

参考文献：『メディア・リテラシー』（菅谷明子著 岩波書店 2000年）ほか

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

1400 | 編集研究

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

田村裕教授、金子伸二教授、高橋世織講師

授業の概要と目標

芸術文化を社会に伝えるうえで出版編集が果たしてきた役割とは何か？主に新聞・出版メディアを対象に、編集意図や主張、恣意性、作為性を読み取り、政治・社会への働きかけや流行・文化との関係、執筆者や読者との関係、編まれ方の変遷などについて、観察と構造的な分析・研究を行なうことで、編集の役割について考える。

課題の概要

○通信授業課題

A6判16ページの小冊子の編集制作および800字程度の「制作レポート」（学習指導書参照）。

○面接授業課題

出席による学習と、グループ・ディスカッションにおける積極発言を期待する。

* 課題については学習指導書『編集研究 平成30年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書に収録された以下の文章を批判的に検討し、自分の考え方を明確にして、小論文執筆の構想を練る。教科書の構成は以下のとおり。

「第一部」編集とは何か、プロデューサー（統括者）としての編集者、《編集》行為からみた宮沢賢治の《文学行為》、美術全集と東山魁夷

「第二部」書籍の装釘の話（内田魯庵、昭和3年）、教化機関としての小説及び浮世絵（市島春城、大正14年）、『文章世界』のこと（前田晃、昭和17年）、挿絵文化の意義（木村毅、昭和16年）

[面接授業]

第1日 前提講義、造本・印刷・編集と挿絵表現に関する講義、実物観察、編集研究のための基礎学習。

第2日 「表現」としての編集行為に関する講義、編集研究のための基礎学習。

第3日 編集研究事例及び電子書籍とデジタル情報資源の活用に関する講義、実物観察、本を構造的に読み取るための観察分析トレーニング（グループ・ディスカッション）。

成績評価の方法

◎科目試験

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「デザインリサーチI・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

[備 考] 芸術文化学科各コース3年次必修科目。

継続履修者で、かつ平成17年度までにスクーリングに合格している学生は科目試験を受験する必要はない。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：酒井道夫編『教養としての編集』（武蔵野美術大学出版社 2009年）

学習指導書：『編集研究 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

その他

面接授業3日目にグループ・ディスカッションを行う。

2240 | 博物館資料保存論

2 単位（通信授業 2 単位）

金子伸二教授、神庭信幸講師

授業の概要と目標

博物館において資料を保存することの意義と保存の歴史、文化財保存の理念、保存を支える関係要素を理解したうえで、資料の材質・形状・状態に合わせた調査・保存・修理方法、資料の劣化因子と保存のための環境整備の重要性を認識し、あわせて展示・梱包・輸送など博物館活動に伴う資料の扱いと保存との関係などへの考察を通して、博物館における資料保存のための基礎的知識を、美術工芸、考古、民俗資料を中心として学ぶ。

課題の概要

[通信授業課題 1、2]

教材による学習の後、博物館における資料の保存と公開の取り組みに関する事例研究、資料の劣化につながる保存環境因子についての調査報告の2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

授業計画

[通信授業]

- ・(教材による学習) 博物館における資料保存の意義(文化財資料に求めるもの/保全をおびやかすリスクとは/臨床的保存の必要性/職業倫理/資料保存を支える専門家)、環境と資料の状態診断(資料の保存公開と環境の関係/環境をモニタリングして状態を評価する/資料の調査診断と記録)、環境と予防保存(環境を改善して資料を保全する/博物館資料を安全に輸送する/保存箱で安全な環境をつくる)、劣化と修理保存(修理を行う前に状態を調査する/対症修理と本格修理の役割/修理報告書を作成する/本格修理の事例)、教育と普及(保存活動の公開/保存教育)、環境保護と博物館の役割(低炭素社会との共存/自然災害への対応/環境と調和する資料保存)
- ・(学修報告と添削指導) 博物館における資料の保存公開活動の事例研究/資料劣化につながる環境因子についての調査報告

成績評価の方法

通信授業課題をもとに評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4年次

[履修条件] 「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること(芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く)。

[備考] 芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者(改正後の学芸員課程[新課程]履修者)は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

教材等

教科書：神庭信幸著『博物館資料の臨床保存学』(武蔵野美術大学出版局 2014年)

学習指導書：『博物館資料保存論 平成30年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年)

その他

学芸員課程履修者(改正後の学芸員課程[新課程]履修者)は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

2250 | 博物館展示論

2 単位（通信授業 2 単位）

田村裕教授、牧野良三教授、足立圭講師

授業の概要と目標

博物館における展示活動の起源と変遷、近年の動向を把握したうえで、展示を成り立たせる条件、展示の目的と形式との関係、展示を構成する諸要素、展示計画の進め方についての基礎的な知識を学修し、あわせて展示という行為に伴う課題や展示において求められる配慮に対する意識を養い、展覧会の企画趣旨と資料の特性や空間の条件、来場者の状態やニーズを勘案した展示計画の基本構想を立案し伝達する能力を獲得すること。

課題の概要

[通信授業課題 1、2]

教材による学習の後、実際の博物館展示から企画趣旨と展示構成との関係を観察・把握し評価・改善提案を行う事例研究、収集された身近な事物を資料と見立てた小規模展示を計画し、実施した結果を記録・文書化する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

授業計画

[通信授業]

- ・（教材による学習）博物館機能での展示の位置／展示の起源と展示学の成立／展示のインタラクティブ化・デジタル化／展示活動のプロセスと体制／展示に関する諸法令／館種等による展示の違い／展示を構成する諸要素／展示における解説活動／展示での資料劣化と管理／映像展示の特徴／展示におけるバリアフリー／展示の政治性・社会性／展示と知的財産権 等
- ・（学修報告と添削指導）展示の企画と構成との関係を把握し評価を行う事例研究／身近な事物を資料とした小規模展示の計画と実施

成績評価の方法

通信授業課題をもとに評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4 年次

[履修条件] 「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

[備 考] 芸術文化学科各コース 3～4 年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者（改正後の学芸員課程 [新課程] 履修者）は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

教材等

教科書：日本展示学会編『展示論 博物館の展示をつくる』（雄山閣 2010 年）

学習指導書：『博物館展示論 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

その他

学芸員課程履修者（改正後の学芸員課程 [新課程] 履修者）は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

2260 | 博物館教育論

2 単位（通信授業 2 単位）

三澤一実教授、金子伸二教授、松永康講師

授業の概要と目標

社会教育施設としての博物館の役割と博物館における教育的機能の種類や特徴を理解したうえで、実際の活動事例の把握を踏まえて、活動実践のための考え方や具体化に向けた手法、学校や地域社会など館外との連携のあり方などを、美術館における教育普及活動を中心的な題材として学び、博物館における教育活動への理解を深めるとともに、教育の担い手としての基本的な認識と活動計画のための基礎的な能力を獲得すること。

課題の概要

[通信授業課題 1、2]

教材による学習の後、博物館で行われている教育プログラムに参加しその目的と内容構成について考察する事例研究、博物館における教育プログラム案および関連ツールの作成の 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

授業計画

[通信授業]

- ・(教材による学習) 博物館における教育活動の背景/学校教育との関係/来館者とのかかわり/博物館の種類に応じた取り組み事例/博物館とまちづくり/体験型展示/ワークシートの位置づけと事例/ワークシート開発の流れと留意点/学校における鑑賞教育事業 等
- ・(学修報告と添削指導) 教育プログラムの目的と内容構成を考察する事例研究/教育プログラムの立案と実施のための関連ツール制作

成績評価の方法

通信授業課題をもとに評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4 年次

[履修条件] 「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

[備 考] 芸術文化学科各コース 3～4 年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者（改正後の学芸員課程〔新課程〕履修者）は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

教材等

教科書：小笠原喜康、チルドレンズ・ミュージアム研究会編著『博物館の学びをつくりだす その実践へのアドバイス』（ぎょうせい 2006 年）

学習指導書：『博物館教育論 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

その他

学芸員課程履修者（改正後の学芸員課程〔新課程〕履修者）は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

1860
1870

卒業制作

6単位（通信授業4単位、面接授業2単位）

田村裕教授、金子伸二教授、高橋世織講師

授業の概要と目標

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるということである。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場だからである。

とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的領野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手段であり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されうるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

課題の概要

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

*課題については学習指導書『卒業制作 平成30年度（芸術文化学科）』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。初回の研究計画書の提出期限は5月5日必着。

[面接授業]

研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

成績評価の方法

論文と提出後の講評との総合評価。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・芸術文化学科各コースに在籍していること。
- ・芸術文化学科各コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。
- ・芸術文化学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 芸術文化学科各コース4年次必修科目。

教材等

学習指導書：『卒業制作 平成30年度（芸術文化学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）